

# 研究

# 算数学習における統計教育の指導と実際

(その2)

常陸太田市立替田小学校

本校が、算数学習上において行っている、統計教育については、先月号にその大要を掲げたが、今回は引続いて、その指導例を掲載する。

## 指導例

第3学年 展開例

(表・グラフ使用上の中心目的)

(つながりのあるグラフの種類)

○問題提示

○棒グラフ

### 全校の登校しらべ (十月取扱い)

(学習目標)

○棒グラフをかくときの目盛りのとり方について理解する。

一時限の流れ(40分)	つかわれる表・グラフ	児童の動き(反省)																																																			
<p>○全校の登校しらべの結果をまとめた二次元表をよむ</p> <p>(1)一番多く登校してきた時間は何時何分から、何時何分までか。</p> <p>(2)少なかつたのは何時何分から、何時何分までか。</p> <p>○全校の登校しらべの結果を棒グラフにかき表わす方法について話し合う。</p> <p>○棒グラフの縦の軸、横の軸に人数時間いずれをとるか。</p> <p>○グラフの1目盛をどのくらいの長さにするか。又1目盛で何人を表わすか。</p> <p>○1人1cmでは、1mになる。</p> <p>○10人1cmでは、1人1mmとなることを理解</p> <p>○棒グラフをかく準備をする。</p> <p>時間、人数、棒の長さを表にまとめて、次回の作業に備える。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>時間</th> <th>男</th> <th>女</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>8時~10分</td> <td>31</td> <td>14</td> <td>45</td> </tr> <tr> <td>10分~20分</td> <td>43</td> <td>51</td> <td>94</td> </tr> <tr> <td>20分~30分</td> <td>72</td> <td>64</td> <td>136</td> </tr> <tr> <td>30分~40分</td> <td>79</td> <td>69</td> <td>148</td> </tr> <tr> <td>40分~50分</td> <td>42</td> <td>55</td> <td>97</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <thead> <tr> <th>時間</th> <th>人数</th> <th>棒の長さ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table>	時間	男	女	合計	8時~10分	31	14	45	10分~20分	43	51	94	20分~30分	72	64	136	30分~40分	79	69	148	40分~50分	42	55	97	時間	人数	棒の長さ																									<p>○最高、最低数が早くよめれば、率的に指導ができた。</p> <p>男、女、合計別に比較させる。</p> <p>○縦軸、横軸どちらでもよいが、統一する必要があるが、指導しにくい。</p> <p>○グラフ用紙の目盛の大きさは一を要す。 (本時は1cm方眼を使用した)</p> <p>○用紙の大きさを考えて1目盛何人を表わすかについては抵抗が多かつた。</p> <p>○10人1cmで表わし、1人1mmの割合もかなりの抵抗を感じた。</p>
時間	男	女	合計																																																		
8時~10分	31	14	45																																																		
10分~20分	43	51	94																																																		
20分~30分	72	64	136																																																		
30分~40分	79	69	148																																																		
40分~50分	42	55	97																																																		
時間	人数	棒の長さ																																																			

第4学年 展開例

表・グラフ使用上の中心目的

(つながりのあるグラフの種類)

○生活事実の表現

○棒グラフ

○折れ線グラフ

気 温 し ら べ (七月取扱い)

学習目標)

○グループ毎に、それぞれの場所での気温を1時間おきに測定して、まとめた数表を棒グラフに書きあらわし、棒グラフの書き方になれると共に、気温のかわり方を調べる時は、棒グラフの上のはしだけ見ればそのようすがわかる事を知り、折れ線グラフとの関係を明らかにする。

一時限の流れ(50分)	つかわれる表・グラフ	児童の動き(反省)																																																
<p>○本時の学習の目あてをつかむ。</p> <p>○グループ毎に調べた気温の数表を棒グラフにあらわす。(イ)</p> <p>○棒グラフをかく。(ロ)</p> <p>1. かく手順を話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○目盛の取り方</li> <li>○縦軸の1目盛を何度とするか</li> </ul> <p>2. グラフをかく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○目盛を取る。</li> <li>○度数と時刻を記入する。</li> <li>○気温をかきこむ。</li> </ul>	<p>(イ) 1時間毎に測定した気温の数表</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td>じこく</td> <td>じ</td> <td>8</td> <td>9</td> <td>10</td> <td>11</td> <td>12</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>じ</td> </tr> <tr> <td>気温</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>グループ毎に異なる場所の気温を測定したものである。</p>	じこく	じ	8	9	10	11	12	1	2	3	4	じ	気温												<p>○数表を作る時は、グループ学習で測定する場所を別々にしたので興味をもつてやった。</p> <p>○五、六人は自分で温度計をみることなく友人のをまねて記録した。(温度計の見方が不十分であった)ため。</p> <p>○手順(かく)を話し合うグループ学習では一人か二人位の活動しか見られなかった。</p> <p>○1ミリ方眼を使用したのであるが目盛の取り方に三分の一は抵抗があった。(四年として適当な方眼の目盛は)</p>																								
じこく	じ	8	9	10	11	12	1	2	3	4	じ																																							
気温																																																		
<p>○でき上がった棒グラフについて話し合う。</p> <p>1. 気温が一ばん高いのは、低いのは、それぞれ何時か。</p> <p>2. 同じ気温は何時か。</p> <p>3. 数表より見やすいこと。</p> <p>4. 気温のかわり方をしらべる時は棒グラフの上のはしだけ見ればわかること。</p> <p>(折れ線グラフとの関係)</p>	<p>(ロ) 気温のかわり方</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td>30</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>20</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>10</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>気おん</td> <td>じ</td> <td>8</td> <td>9</td> <td>10</td> <td>11</td> <td>12</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>じ</td> </tr> </table> <p>棒の上のはしだけをつないでかいたのが折れ線グラフであることを知る。</p>	30												20												10												気おん	じ	8	9	10	11	12	1	2	3	4	じ	<p>○線の引き分、定規の使い方等にも指導する必要がある。</p> <p>例</p> <p style="text-align: center;">—————→(正)←—————</p> <p>○定規をあてて 手前に引いている。</p> <p>○定規をあてて 右から引いている。</p>
30																																																		
20																																																		
10																																																		
気おん	じ	8	9	10	11	12	1	2	3	4	じ																																							
<p>○次時予告</p> <p>この気温を折れ線グラフにかいてみよう。</p>																																																		

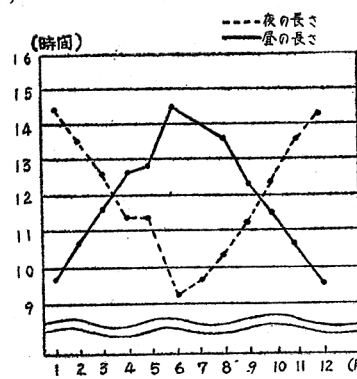
第5学年 展 開 例  
 (表・グラフ使用上の中心目的)  
 ○問題提示

(つながりのあるグラフの種類)  
 ○折れ線グラフ

昼 と 夜 の 長 さ (2月取扱い)

(学習目標)

○日の出・日の入りの時刻を知ることによって、その変化をはつきり知る方法として、折れ線グラフにあらわす方法を学習し、その傾向を調べる。

<p>一 時 限 の 流 れ (55分)</p>	<p>つ か わ れ る 表 ・ グ ラ フ</p>	<p>児 童 の 動 き (反省)</p>																																																																																				
<p>○前時「日の出」「日の入り」時刻表より算出した「昼の長さ」「夜の長さ」の表をたしかめる。(イ)(ロ)</p> <p>○「昼の長さ」「夜の長さ」の時間の変化について調べるといふ目的の確立。</p> <p>○表わし方について、となり同志検討する。</p> <p>○折れ線グラフをかく目的および、その方法について話し合う。</p> <p>○二つの折れ線にあらわす方法について研究する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○全体的な数量の動向をつかむことができる。</li> <li>○途中の状態は全体の傾向から推定することができる。</li> <li>○いくつもの条件をグラフ化して同時にかきあらわすことができる。</li> </ul> <p>○目盛の1/10まで概数をとる。</p> <p>○必要な概数の表をつくる。</p> <p>○グラフ作成。(イ)</p> <p>○作成したグラフによって一日の長さが概観できることを話し合つて学習を終わる。</p>	<p>(イ) 日の出、日の入りしらべ。        昭和33年神宮暦による。</p> <table border="1" data-bbox="535 463 926 608"> <tr> <td></td> <td>1月</td> <td>2月</td> <td>3月</td> <td>4月</td> </tr> <tr> <td>日の出</td> <td>時 分 6:51</td> <td>6:39</td> <td>6:06</td> <td>5:23</td> </tr> <tr> <td>日の入り</td> <td>4:42</td> <td>5:11</td> <td>5:40</td> <td>6:05</td> </tr> </table> <table border="1" data-bbox="535 618 926 753"> <tr> <td>5月</td> <td>6月</td> <td>7月</td> <td>8月</td> <td>9月</td> </tr> <tr> <td>5:23</td> <td>4:25</td> <td>4:32</td> <td>4:53</td> <td>5:17</td> </tr> <tr> <td>6:05</td> <td>6:54</td> <td>7:00</td> <td>6:39</td> <td>6:00</td> </tr> </table> <table border="1" data-bbox="535 763 926 898"> <tr> <td>10月</td> <td>11月</td> <td>12月</td> </tr> <tr> <td>5:41</td> <td>6:09</td> <td>6:37</td> </tr> <tr> <td>5:15</td> <td>4:40</td> <td>4:28</td> </tr> </table> <p>(ロ) 昼の長さ、夜の長さ</p> <table border="1" data-bbox="535 937 926 1062"> <tr> <td></td> <td>(1月)</td> <td>(2月)</td> <td>(3月)</td> <td>(4月)</td> </tr> <tr> <td>昼の長さ</td> <td>時間分 9:51</td> <td>10:32</td> <td>11:34</td> <td>12:32</td> </tr> <tr> <td>夜の長さ</td> <td>14:09</td> <td>13:28</td> <td>12:26</td> <td>11:28</td> </tr> </table> <table border="1" data-bbox="535 1072 926 1197"> <tr> <td></td> <td>(5月)</td> <td>(6月)</td> <td>(7月)</td> <td>(8月)</td> <td>(9月)</td> </tr> <tr> <td>昼の長さ</td> <td>12:32</td> <td>14:29</td> <td>14:28</td> <td>13:46</td> <td>12:43</td> </tr> <tr> <td>夜の長さ</td> <td>11:28</td> <td>9:31</td> <td>9:32</td> <td>10:14</td> <td>11:17</td> </tr> </table> <table border="1" data-bbox="535 1207 926 1323"> <tr> <td></td> <td>(10月)</td> <td>(11月)</td> <td>(12月)</td> </tr> <tr> <td>昼の長さ</td> <td>11:34</td> <td>10:31</td> <td>9:51</td> </tr> <tr> <td>夜の長さ</td> <td>12:26</td> <td>13:29</td> <td>14:09</td> </tr> </table> <p>(イ)</p> 		1月	2月	3月	4月	日の出	時 分 6:51	6:39	6:06	5:23	日の入り	4:42	5:11	5:40	6:05	5月	6月	7月	8月	9月	5:23	4:25	4:32	4:53	5:17	6:05	6:54	7:00	6:39	6:00	10月	11月	12月	5:41	6:09	6:37	5:15	4:40	4:28		(1月)	(2月)	(3月)	(4月)	昼の長さ	時間分 9:51	10:32	11:34	12:32	夜の長さ	14:09	13:28	12:26	11:28		(5月)	(6月)	(7月)	(8月)	(9月)	昼の長さ	12:32	14:29	14:28	13:46	12:43	夜の長さ	11:28	9:31	9:32	10:14	11:17		(10月)	(11月)	(12月)	昼の長さ	11:34	10:31	9:51	夜の長さ	12:26	13:29	14:09	<p>○昼と夜の時間の計算は分担してやり、最後に空らんを全部で確かめながら表記入したので能率的にできた</p> <p>○児童は敏感で        (○数の同じもの        (○1分しかちがわない))        と夫々表の形式的な読みをしている。</p> <p>○自由帳をつかつて、ちよつと下書きしている。</p> <p>○モデルとしてグラフ資料の中から「百貨店の売上高」「教室の温度」「私たちの成績」を掲示。児童のおよその目やすをつかむ参考としてよく役立った。</p> <p>○概数のとり方いろいろなものである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○えがくグラフによって(グラフの目盛)概数のとり方のきまることをはつきり知らせる必要がある。</li> <li>○1目盛-10分(1/10までもとめられること)</li> </ul> <p>○波線の指導もはつきりつかませる必要がある。        「波線は折れ線にだけいれるんだよね。」(児童の声)</p> <p>○定規のつかい方の工夫がたりない</p> <p>○グラフの上に更に念入りに線を入れていく児目立つ。</p> <p>○グラフ作成は自由な立場で自分の力で仕上げてみる。</p> <p>○最後の自己評価は単純なよみとりだけに終わる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○グラフ化した期間での変化の相を観察できるよう指導する。</li> <li>○1目盛(3mm方眼使用)10分相当と考えて使用。</li> </ul>
	1月	2月	3月	4月																																																																																		
日の出	時 分 6:51	6:39	6:06	5:23																																																																																		
日の入り	4:42	5:11	5:40	6:05																																																																																		
5月	6月	7月	8月	9月																																																																																		
5:23	4:25	4:32	4:53	5:17																																																																																		
6:05	6:54	7:00	6:39	6:00																																																																																		
10月	11月	12月																																																																																				
5:41	6:09	6:37																																																																																				
5:15	4:40	4:28																																																																																				
	(1月)	(2月)	(3月)	(4月)																																																																																		
昼の長さ	時間分 9:51	10:32	11:34	12:32																																																																																		
夜の長さ	14:09	13:28	12:26	11:28																																																																																		
	(5月)	(6月)	(7月)	(8月)	(9月)																																																																																	
昼の長さ	12:32	14:29	14:28	13:46	12:43																																																																																	
夜の長さ	11:28	9:31	9:32	10:14	11:17																																																																																	
	(10月)	(11月)	(12月)																																																																																			
昼の長さ	11:34	10:31	9:51																																																																																			
夜の長さ	12:26	13:29	14:09																																																																																			

第6学年 展開例

(表・グラフ使用上の中心目的)

(つながりのあるグラフの種類)

○問題提示

○数表、折れ線グラフ

○問題の解答

農 地 と 農 作 物 (1月取扱い)

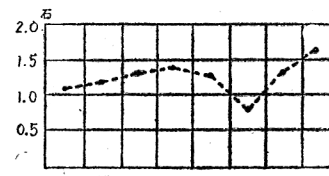
(学習目標)

○171.2万町や2,761千石のような数の読み方

○反当り収かく高の意味の理解

○末尾の〇を処理しての割り算の習熟

○折れ線グラフの書き方、見方、解釈の仕方が出来るようになる。

一時限の流れ(50分)	つかわれる表・グラフ	児童の動き(反省)																																								
<p>○右の表をみて小麦の作付面積の一番多い年と、その面積をよむ。</p> <p>○(イ)の表から小麦の収かくの最も多い年とその収かく高をよむ。</p> <p>○(イ)の表から反当り収かく高を算出する。</p> <p>○反当り収かく高を表にまとめる。(ロ)</p> <p>○反当り収かく高をグラフにまとめる。(ハ)</p> <p>○グラフを見て、これからの反当りの収かく高はどのようになっていくかを考える。</p>	<p>(イ)</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td>大正8年~大正12年 ( // )</td> <td>千町 517</td> <td>千石 5,750</td> </tr> <tr> <td>// 13年~昭和3年 ( // )</td> <td>472</td> <td>5,946</td> </tr> <tr> <td>昭和4年~// 8年 ( // )</td> <td>522</td> <td>6,672</td> </tr> <tr> <td>// 9年~// 13年 ( // )</td> <td>690</td> <td>9,407</td> </tr> <tr> <td>// 14年~// 18年 ( // )</td> <td>817</td> <td>10,795</td> </tr> <tr> <td>// 19年~// 23年 ( // )</td> <td>687</td> <td>6,791</td> </tr> <tr> <td>// 24年~// 28年 ( // )</td> <td>939</td> <td>10,292</td> </tr> <tr> <td>// 29年~// 31年 (3カ年平均)</td> <td>690</td> <td>10,715</td> </tr> </table> <p>(ロ)</p>  <p>(ハ)</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td>大正8年~大正12年 (5カ年平均)</td> <td>1石1斗1升</td> </tr> <tr> <td>// 13年~昭和3年 ( // )</td> <td>1 // 2 // 6 //</td> </tr> <tr> <td>昭和4年~// 8年 ( // )</td> <td>1 // 2 // 7 //</td> </tr> <tr> <td>// 9年~// 13年 ( // )</td> <td>1 // 3 // 6 //</td> </tr> <tr> <td>// 14年~// 18年 ( // )</td> <td>1 // 3 // 2 //</td> </tr> <tr> <td>// 19年~// 23年 ( // )</td> <td>9 // 9 //</td> </tr> <tr> <td>// 24年~// 28年 ( // )</td> <td>1 // 3 // 6 //</td> </tr> <tr> <td>// 29年~// 31年 (3カ年平均)</td> <td>1 // 5 // 1 //</td> </tr> </table>	大正8年~大正12年 ( // )	千町 517	千石 5,750	// 13年~昭和3年 ( // )	472	5,946	昭和4年~// 8年 ( // )	522	6,672	// 9年~// 13年 ( // )	690	9,407	// 14年~// 18年 ( // )	817	10,795	// 19年~// 23年 ( // )	687	6,791	// 24年~// 28年 ( // )	939	10,292	// 29年~// 31年 (3カ年平均)	690	10,715	大正8年~大正12年 (5カ年平均)	1石1斗1升	// 13年~昭和3年 ( // )	1 // 2 // 6 //	昭和4年~// 8年 ( // )	1 // 2 // 7 //	// 9年~// 13年 ( // )	1 // 3 // 6 //	// 14年~// 18年 ( // )	1 // 3 // 2 //	// 19年~// 23年 ( // )	9 // 9 //	// 24年~// 28年 ( // )	1 // 3 // 6 //	// 29年~// 31年 (3カ年平均)	1 // 5 // 1 //	<p>○多い年は大体の児童がすぐみつかる。</p> <p>○面積をよむのに 517千町を五百七十七千町とよむ児童が少数であるがまだいる。</p> <p>○例えば5750千石を 5,750千石とし百万の位をとらせたが、やはり下から千万、十万、百万とかぞえて読む児童が半数以上いた。そこで 575.0万石と小数点と単位をかえてよませたら大部分の児童が容易に読むことができた。割り算については児童に速さのちがひがあり、手分けしても遅い児童はこれによつて割り算の線はあまり出来なかつた。</p> <p>○教科書の米の反当り収かくの表を参考としたためか何石何斗何升と書くことは容易であつた。</p> <p>○前に10年ごとに調べた米、小麦の反当り収かくをかいた時線の上に点をとらせて、それを結んだが、ここでは特に平均であるから、その線の中間にとるように指導したがまだそれが理解できない児童がいるようである。</p> <p>○今後更に上昇していきだろうということも児童は考えられた。</p>
大正8年~大正12年 ( // )	千町 517	千石 5,750																																								
// 13年~昭和3年 ( // )	472	5,946																																								
昭和4年~// 8年 ( // )	522	6,672																																								
// 9年~// 13年 ( // )	690	9,407																																								
// 14年~// 18年 ( // )	817	10,795																																								
// 19年~// 23年 ( // )	687	6,791																																								
// 24年~// 28年 ( // )	939	10,292																																								
// 29年~// 31年 (3カ年平均)	690	10,715																																								
大正8年~大正12年 (5カ年平均)	1石1斗1升																																									
// 13年~昭和3年 ( // )	1 // 2 // 6 //																																									
昭和4年~// 8年 ( // )	1 // 2 // 7 //																																									
// 9年~// 13年 ( // )	1 // 3 // 6 //																																									
// 14年~// 18年 ( // )	1 // 3 // 2 //																																									
// 19年~// 23年 ( // )	9 // 9 //																																									
// 24年~// 28年 ( // )	1 // 3 // 6 //																																									
// 29年~// 31年 (3カ年平均)	1 // 5 // 1 //																																									

# 最近の新生活運動

昭和33年5月

(環境衛生課生活科学係)

## はじめに

最近の新生活運動は、とくにめざましく発展していく傾向にあるが、その一般状況を、下記の項目によつて調査してみた。もとより、この運動は、必ずしも数値をもつて測定可能な面ばかりではないが、できるだけ、各地の実情を精査してまとめた。運動推進上の参考となれば幸いである。

### I 運動の一般状況

	県平均 —%	全国平均 1.7%
(1)まだ何の動きもない。		
(2)指導者だけの動きにとどまつている。	9.0	9.6%
(3)ぼつぼつ動きがでてきた	22.0	47.4
(4)相当活発になつてきた。	21.0	29.0
(5)以前から活発である。	20.0	9.7
(6)活動が下火になつた	2.4	1.6

本県は、比較的活動の時期が早かつたから、全国平均に比べて、活発となつたが、一方では「活動が下火となつた」が、24%の多きに上つている。一応の目標が或る程度成功したため一時中止し、次の目標への準備中のももあろうが、町村合併による、足並の不揃いが原因しているようだ。

### II 運動推進の母体

	県 48.0%	全国 24.0%
(1)市町村		
(2)教育委員会	38.0	25.7
(3)協議会(これと等しいもの)	22.0	29.0
(4)公民館	31.5	48.0
(5)農協	4.0	11.0
(6)社会福祉団体	—	4.0
(7)婦人団体	86.0	54.0
(8)青年団体	7.4	—
(9)グループ	64.4	11.0
(10)部落会、町内会	40.0	23.0

推進団体は、市町村、教委、公民館、及び青年婦人の団体が合同して行つたため、殆ど分け難く、一般状況から推測して、主に活動しているものをつつた。従つて同一町村で、二つ三つの団体が上げられたものもある。この表では、婦人団体とグループが運動の中核となつていようである。(グループとは、4日クラブ、主婦クラブ、農研クラブ等の小グループ)

### III 運動の形態

	県 52.0%	全国 37.0%
(1)規約や申合せがある		
(2)話し合いが主である	36.0	60.1

(3)広報が主である	21.0	33.4
(4)指導者の養成が主である	11.0	23.9
(5)調査活動が主である	2.0	7.0

運動の形には、一つだけに重点をおくことが困難であるので、総合的に進めているから、このような結果となつた。

### IV 実践課題

	県 76.0%	全国 50.1%
(1)時間励行		
(2)虚礼の廃止	72.0	42.0
(3)結婚の改善	67.0	62.0
(4)食生活改善	60.0	53.7
(5)台所の改善	54.0	41.3
(6)かとはえ	52.0	54.0
(7)貯蓄	48.0	31.0
(8)迷信因習	38.0	21.0
(9)農業経営	36.0	24.0
(10)衣生活改善	16.0	—
(11)労働力の軽減	13.0	14.0
(12)家族計画	12.0	27.9
(13)その他	10.0	9.0

活動の主なものをとりあげて集計したので、必ずしも一つのみでないから、100%とならなかつた。なお、形も一定してないので、比較的近い項目に入れてみた。

この項目のほかにも多くの課題があつたが、一応全国平均の形をとつたので、本県の運動と比して多少の違いもあつたようである。

### V 運動の効果

	県 38.0%	全国 18.0%
(1)相当成果を上げている。		
(2)ぼつぼつ上つてきた。	19.0	45.0
(3)まだまだこれからである。	27.0	32.0
(4)全然成果がみられない。	16.0	1.0
(5)運動は失敗である。	—	0.1
(6)不明	—	4.0

運動の効果は、一応、その地域全般に及ぼした効果を主にして調査したから、未だ、一地域のみ、又は小グループのみの活動に止つている傾向が強く、全般的にはまだまだこれからという現況である。

### おわりに

新生活運動の一般状況を、このような数値によつて測定することは、大いに危険性があるのであるが、できるだけ、客観的に、いろいろの資料をあつめて出した。更に具体的に調査してみたいものと研究中である。なお、この資料は、新生活運動協会の依頼により示された項目によつて作成した。



## (統) (計) (用) (語) (の) (解) (説)

(表式調査) 一定様式の統計表を示しておき、これに多くの統計単位の観察結果をある程度集計しながら記入した結果を報告させる方法である。このような調査で実際上推算をまじえて記入していくことが多く、直接調査による結査よりも信頼度が低いとされている。しかし、簡便迅速に結果がえられるから、大体の事情を急速に集める必要がある場合には便利である。

(以西底引網漁業) 東経130度から西側の東支那海、黄海で行う底引網を使う遠洋漁業であり、50トン以上のスクリーンを備える船を使い、操業海域は北緯25度以北東経130度以西の区域で、北緯3度以北の日本海を除く範囲に限定されている。取れる魚は主としてチクワやカマボコの原料となる。

### 編 集 室

●今年もまた、桜の花便りに先がけて、恒例の県行改機構の改革があり、従来の調査企画課が解体して、総合開発業務関係は開発課として独立し、調査統計事務関係は文書課に合併して、新しく文書統計課が誕生した。前調査企画課長山本満男氏は、初代開発課長として県行政の総合企画のためにその敏腕を振われることになったので、統計事務は、新文書統計課長の赤津三郎氏の傘下に入ったわけである。

●統計法が施行されて十年ともなれば、今さら、法運営のための組織が変わったところで、何のうんぬんするところもないが、新年度とともに、統計もやはり、より一層正確に、そして、統計の活用が、いわゆる消費面だけではなく、生産面、投資面にも利用されて、窮極の目的である私たちの生活が少しでも良くなることを

望みたい。

◎統計から見て、今年はアリの出が遅いとか、梅につく毛虫が小さいとかいつたことはとも角、衆院が解散されて、立候補者の演説に、多かれ少なかれ統計の数字が用いられるようになって来たのは、統計が、ようやく、その本来の目的のために利用されつつあるのを示して喜ばしいが、さらに進んで、統計が個人一人一人の生活に入り込むことは、ある意味で高度の生活方式といえるのではないかと考えられ、この小冊子もむしろその面での利用に供されたいと思う。

◎なお、今月号から従来の「茨城調査時報」を改題して「統計茨城」とした。それとともに、五年有余にわたって愛顧をいただいた表紙も模様替えした。おそらく長年の風雪に耐えて、ペンキの色もあせたろうと思うからである。新しい皮袋というほどでもないが、中に盛る酒は美味でありたい。

